

スイッチの入った
あの時

じぶん
switch!

長い人生で やりたいことを ひとつに絞るのは もったいない」

デザイナー
→ 公認会計士試験合格

福島和加奈さん (30歳)



Profile

Wakana Fukushima

有限責任 あずさ監査法人 横浜事務所

1979年生まれ。神奈川県・私立横浜共立学園高等学校、多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒業。広告制作会社で4年間デザイナーとして働いたのち退職。2年間予備校に通い、公認会計士試験に合格した。現在はあずさ監査法人において会計監査を行っている。

※公認会計士試験に合格後、2年間の実務経験と実務補習を受け、修了審査に合格すると正式に公認会計士となる。

撮影 / 小野 啓

switch!

文理選択に悩む

学生時代は数学と美術が好きだったので、中学3年で文理選択を考えたととき、文系で美大を目指すか、理系で数学を勉強するか迷いました。判断材料になったのは将来の職業。美術ならイラストレーターや広告関連などいくつかの職業を思いついたのですが、当時の知識では、数学からつながる仕事は教師しか思いつかず、人に教えるのは難しそうだと考えて、文系を選びました。また美術の先生に「大変な道だよ」と反対されたことも、「それでもやりたい」と本気になるきっかけになりました。

switch!

不況の原因が知りたい

大学では、新聞広告やポスター、テレビCMなどをつくる勉強をして、卒業後はデザイナーとして広告制作会社に入りました。企業の担当者と広告の方向性を話し合い、コピーライターやカメラマン、イラストレーターと協力して、製品カタログやチラシなどを制作。多くの人と力を合わせて一つのものをつくりあげる作業は楽しかったです。

一方で、企業にネガティブな考えがはびこっていることが気になりました。広告の仕事では、制作物の方向性を明確にするた

めに、企業の歴史や理念、商品やビジネス構造などを調べ、企業の人に話を聞くのですが、みんな不況のせいで暗くなっています。なぜ不況なのか。好転させるには何が必要なのか。勉強して何とかしたい!と考えるようになりました。そんなとき『13歳のハローワーク』という本で、経済や経営の知識と数学的な考え方を学ぶ公認会計士の仕事を知ったのです。「今の私にぴったりだ。この仕事に就こう」と決意。退職して2年間予備校で学び、試験に合格しました。

switch!

退職して資格の勉強

転職を決めたとき、続けてきたことを辞めるのはもったいないと人から言われました。でも私は、人生は長いんだし、人の能力は一つじゃないから、やりたいことをやらないのはもったいないと思ったのです。だから転職に迷いはありませんでした。

いまは会計士事務所、企業の会計書類が正しくつづられているか確認する会計監査をしています。企業の経理や財務の担当者とやりとりしながら仕事を進めるので、コミュニケーション能力が大切。そこにはデザイナー時代の経験が生きています。広告の経験を「捨てた」のではなく、やりたいことが「増えた」のだと考えています。